

# 世界禁煙デーと COPD 広報げろ 2017.6

## 世界禁煙デーと COPD

世界保健機関 (WHO) は平成元年 (1989) 以降 5 月 31 日を世界禁煙デーと定め、それに引き続いて喫煙しないことが一般的な社会習慣となることを目指した「たばこか健康かに関する活動計画」を推進しています。日本では、厚労省が平成 4 年からこの世界禁煙デーに始まる一週間を「禁煙週間」として定め、各種の施策を講じてきています。

今年度の世界禁煙デーのスローガンは Tobacco - a threat to development 「たばこ-発展に対する脅威」と訳してみました。これは、世界的なたばこの脅威に立ち向かうことによって政府と国民が健康と発展を促進するために必要な措置を提案しようというものです。それを受けて日本における今年度の禁煙週間のテーマは、「2020 年、受動喫煙のない社会を目指して～たばこの煙から子ども達をまもろう～」となっています。

たばこの害については喫煙者ばかりでなく副流煙による害についても大きな問題になっています。厚労省は受動喫煙が原因であることが明らかだった病気で余計にかかった医療費が 2014 年度年間 3233 億円、また、喫煙者では年間 1 兆 1669 億円かかったと推計しています。副流煙の害の予防は分煙では効果なく、禁煙が世界の常識となっています。日本でも 2020 年のオリンピックに向けて対策法が議論されていますが、政府は禁煙には消極的で分煙対策も考えられています。先進国では常識となっている禁煙に逆行する事のないようきれいな空気の中でオリンピックを迎えたいものです。

たばこが原因で引き起こされる病気にはがんをはじめ様々なものがありますが、喫煙が直接の原因で受診が最も多い病気が COPD (慢性閉そく性肺疾患、肺気腫) です。日本呼吸器学会によれば、2001 年には COPD は 40 歳以上の日本人の 530 万人が罹患していると推測されています。しかし、2014 年の厚労省患者調査によると、病院で COPD と診断された患者数は約 26 万人です。つまり、COPD であるのに受診していない人は 500 万人以上いると推定されています。多くの人々が、COPD であることに気づいていない、または正しく診断されていないこととなります。

「今日も元気だ たばこがうまい！」とは日本専売公社 (現・日本たばこ産業株式会社) が昭和 32 (1957) 年に使用したポスターのキャッチコピーです。このころから喫煙していた人の多くは今後 COPD で苦しむことになるかと推測されます。

COPD が深刻な病気である理由は初期にはほとんど症状がなく、高齢になって症状が出るころには肺病変が進行し、加齢に伴うその他の病気も重なってつらい療養生活を強いられることです。肺の変化は治療によっても改善することはなく、徐々に進行し、有効な治療法は臓器移植という事になります。

COPD は早期に診断、治療すればその進行を遅らせることが可能です。『過去 100 本以上の喫煙歴がある』『慢性の咳や痰』『坂道などで息苦しくなる』『40 歳以上』など思い当たることがあれば医療機関を受診しましょう。呼吸機能検査 (スパイロメーター) によって肺年齢、肺の老化度、COPD かどうかなどがわかります。初期には無症状の事もあり健康診断などで呼吸機能を知ることも大切です。

下呂市立金山病院 顧問 古田智彦